# いのちと光に満ちた都

２０２６年１０月１８日

ヨハネの黙示録　２２章１～５節

序：新しいエルサレムの光景

⑴栄光（神の永遠の栄光）

⑵城壁（１２の門、１２人の御使い、１２部族の名）高さ：６５ﾒｰﾄﾙ

⑶城壁の土台石（１２、１２使徒の名）

⑷都の広さ（広大な立方体：一辺が2400ｷﾛﾒｰﾄﾙ
すべての時代のすべての聖徒たちが住むのに十分なスペース
旧約・新約・大患難期
子羊のいのちの書に名が記されている人々
城壁の高さ：６５メートル

⑸構造・材質（透き通ったガラスのような純金、碧玉、あらゆる種の宝石、真珠）
町、大通り　　城壁　　土台石　　門

⑹存在しないもの・不要になるもの（神殿、太陽・月、夜）
理由　　（三位一体の神、光の源＝神）

⑺門（入口）は永遠に解放されたまま、閉じられない（夜、闇、罪人がいない）
入ってくるのは子羊のいのちの書に名が記されている者だけ
ユダヤ人も異邦人も（諸国の、全時代の、王たちも民も）
※不信者たちはすでに火の池（地獄）に投げ込まれ、終わりなき苦しみに

Ⅰ．新しい都の光景

⑻いのちの水の川　　22･1~2
水晶のように光るいのちの水の川
神と子羊の御座から出ている　＝　この川の源
都の大通りの中央を流れていた
都の霊的祝福の中心

千年王国との違い
川：エゼキエル　４７・１　　ゼカリヤ　１４・８
神殿の敷居の下を流れる川　　エルサレムから死海と地中海に分流

御座：神の代理で統治（王の王）　⇨　神と共なる臨在

⑼いのちの木　　22･2
川の両岸にある
毎月、１２種類の異なった実がなる（この世の気象、気候とは違う新しい暦）
新しい体では、生存のために食する必要はないが、食べる楽しみはある
その葉には、いやしの力がある≠病気をいやすのではなく、活力保持
病も死も存在しない（諸国の民：異邦人、病の侵入なし）

いのちの木はエデンの園の中央にあった　創　２・９
神に背いたアダムとエバはその木から遠ざけられ追放された
御国でふさわしい人たちが食べるように、神が守っておられた

⑽住民　　22･3~4
呪い（罪の結果）は皆無　　神はもはやさばきをなさる必要がない
すべての時代の聖徒たちは都の住人となる
神と民は直接に永遠に交わりを持続する
主としもべの関係

額に神の御名　　黙示　３・１２　（アダム～最後の義人）
神の民は、神に仕え、神を礼拝する

再記⑾栄光に照らされる　　22･5
夜、闇がない
神ご自身が光源　（∴太陽、月不要）
民はしもべであり王である
誰かに強いられてではなく、きよい良心により、喜んで自発的に
神に仕える（真の自由）

Ⅱ．結び
⑴永遠の御国についての啓示を神は与えてくださった（黙示録２１～２２章）
〃　　そのものが神の賜物である

⑵少ない情報のようであっても、私たちに必要なことは十分に知らされている
垣間みて、希望と信仰を強められる

⑶そこに行くにはどうすればよいか、それが聖書の大半に啓示されていること
（神・罪・救い）
⑷信仰者のゴール・永遠の住まいは天の御国である
目を天に注ぎつつ、足を地につけて走路を完走、旅路を歩み切ろう